

語り部ニュース

八月十日ボーイスカウト

百五十名来館

熱心に語り部の説明を聞くボーイスカウトの皆さん



引揚棧橋跡地 北棧橋に立つ

記念館で案内していると、時々北棧橋について尋ねられる時があります。少なくとも昭和21年12月から昭和25年まで引き上げられた方々が上陸された思い出の多い棧橋です。

引揚記念公園に上つてみると、大浦小学校前の護岸防波堤の1ヶ所が白いペンキで塗りつぶされていて「あのあたりです」と案内しているのですが、実際現場近くに行つてみると、案内板は大浦小学校と大浦会館の間にあるフェンスに取り付けられてあり、よく見ないとわかりません。



そしてペンキで塗りつぶされ

たコンクリートの護岸上部には、黒ペンキで「引揚棧橋跡」と記してあったようです。記してあったようですが、大部分が消えてしまつて、判読しにくい程薄れてしまっているからです。

いつ書かれたのか、どの管轄の方が記されたのかわかりませんが、再度記し直



して判読できるようにして欲しいものです。辛い抑留体験者の方たちにとつては、忘れられない特別な場所だからです。
(谷口久乃)

聞き取りべ活動

劇団四季ミュージカル異国の丘が六月二十七日から七月五日まで四季劇場で公演されましたが、主人公九重秀隆(近衛文隆)氏の人柄のお話を聞きました。
兵庫県から来館された方で、満州で近衛大尉と同じ部隊で当番兵に就いた方です。

大尉は体格は当時の日本人としては大柄で、気の優しい方であつたようです。
自分は軍人には向いていないので、戦争が終わつたら外交官になりたいと言われていた。

お酒が好きで、書が上手であつたようで部下の方がお酒をついで何か書いてもらおうと、良くお酒を飲まれたようです。大尉は部下との酒の席では軍服を脱ぎ下着姿で来られ部下に気を使わせないようにしておられたようです。

当番兵の就いたときの話、石鹸を持つてきてほしいとの要望で顔を洗う石鹸を持つていくと、これではなく洗濯石鹸だと言われ、自分は当番兵です洗濯は自分がやりますと答えると、男は将来どんな大物になるかわからない、そんな人物に自分のふんどしを洗濯させるわけにはいかない、いから洗濯石鹸をもつてこいと言われ渡されたそうです。

その方の推測によると、大尉は痔を患

つておられたので、部下に心配をかけないために自分で洗濯されたのではないかとお話されていました。

ミナジカルを観てこられた方には、喜んでいただけるプチ情報です。

中田照造

北海道 十勝)の浜さん八十六歳が来館され話された事

吉林からムーリンまで二七〇キロを徒歩で連れて行かれた。商業学校を出ていたので胸に小型のソロバンを持っていたこともあり、初めから糧秣係りで経理を担当していた。

奥様が傍から、他の抑留者の方には申し訳ないほど、この人は楽な抑留者だったんです。」と付け加えられた。

最初の頃は入る食材をロシアの囚人上りの監視兵達がピンハネするので量も少なく、配分に苦労した。後のほうでは日本人に任せてくれたので量も定まり安定した。食材が駅に着くので受け取りに行くと起きたのが夜中の二時、暗くて、駅までの道もしっかり覚えておらず、一人で二頭立てのソリで受け取りに行くときはとても心細かった。」

「マイナス五十度の中、窓ガラスは一重でしかも壊れているところを、S字型の留め金で留めてあった。炊事場は土壁で密閉

してあり火を使う為暖かいのだが、しかし暖かすぎて閉口した。ソ連の将校が見回りに来て、ハエが一匹いたのをとがめられ、こんな状態で病人を出したらどうするののか!と強く注意された事もあった」

昭和二十三年七月、やがて明優丸で引揚

げることになった時、急にロシア語でズボンや下穿きなど何枚必要か記入するように命じられ、支給されナホトカに着き、タラップを上っている時にひきずり降ろされた者がいた。自分も降ろされるのではないかと内心ヒヤヒヤしながら乗船した。降ろされた者はきつと民主化運動でアクチブにいらまれた人だったのだろう・・・」

舞鶴についてDDTの消毒、お風呂までは良かったが、所持品のうち戦友名簿を取り上げられたのが何よりも悔しかった。

大切に持ち帰った物だから余計に思い入れが強かった。その名簿とは、紙は乾燥野菜(アメリカからの援助物資)を包んでいた紙、ペンは缶詰の空き缶を切った物、インクは、トウヒという木の皮を燃やしてススを取り、油で作った。戦友の住所、氏名など丁寧に書いたものだ」

GHQがそれとも・・・とにかくあんな悔しい思いは、今でも思い出すと腹が立つ。」

名簿問合せ先の用紙をお渡しして送り出

した。谷口久乃)

講演依頼

国立工業専門高等学校にて十一月

村尾

京都府立学校長OB会より

二十二年五月 中田

8月の活動実績

稼働日数 31日

ガイド数 1,555人

予約数 18件

予約人数 541人

稼働会員数 14人

募金箱 63,368円

ご苦労様でした。

夫婦箸人

森下

これもガイドの一コマ。お年を召した女性、じつとシヨケースをのぞき込んでいる。横に立つて声を掛けた。『スゴイでしょう、これ皆手作りなんです』 自分はケース内のスプーンを指して言ったつもりだが、このご婦人曰く『おうねー可哀想、これ夫婦箸入れよ、奥さんがいるのよねー、一人なのに』とのたまった。

ウーンと絶句。なるほど今まで視覚的には見えていても全く気づいていなかった。



これはもう女性の持つ感性か性(さが)、DNAの違いか、それとも自分が鈍感なのか・・・この箸箱には後日談があります。そうです。ご存じ語り部ノートにこの箸箱の事が詳しく出ております。それまでこの箸箱の事はしりませんでした。語り部ノート万歳。

連載

「兵卒のシベリア捕虜記

著者・門間祐太郎

編集・南澤 武

【強制連行が始まって八日目、冬の気配が近づく・・・】

三人くらいが組みになって、先ず所々にまだ残っている長い草の茎を何本か

束ねてドーム型にし、泥の上に突きたて一枚の軍用毛布をその中に敷き、次にドームの上を別の毛布で覆って屋根としました。残った一枚を三人でかぶって身体を密着させて暖をとりながら、やっと寒い夜を過ぎました。十月の

初め頃、捕虜輸送用の貨車に五十〜六十名位ずつが詰め込まれました。出入り口を外からガッチリ閉ざされました。貨車の中では各自が腰を下ろすのがやっとで横になどとても出来ません。

貨車が走り出して三〜四時間経ったのに、一向に停まる気配がありません。皆同じ思い、小便がしたくても腰を下ろした場所から一寸も動く事が出来ません。必死の思いで何とか始末しますが、うっかりズボンの中にでも漏らしでもしたら、始めは暖かくても貨車を降りて外気に冷やされたら、たちまち下着からズボンまで凍り、皮膚にくっついて、必ず凍傷になるのです。

貨車は四〜五時間おきに停車して密封した外側の錠前が外されました。この時、車内で動ける者は一斉に車を降りて車に面して排便排尿しました。凍った原っぱへ置いてきぼりされるのが怖かった生でしょうか、貨車に背を向けてしゃがんでいたの者は脱走を企てて

いる者とみなされたのか？ やっと十五〜六歳の乳の香りも残っているようなソ連の捕虜輸送兵に、尻を蹴つ飛ばされ、凍土の中へ頭からつんのめって、そのままそこへ置き去りにされてしまった者も幾多居りました。

脱走防止のために密封された貨車の中で排泄物をどう始末するか、飢えをどう凌ぐか、防寒のため車の窓を密封しておくか、車中の臭気を消すため換気窓を残すか、等々各人各様の心身の状態でその意見は喧々諤々でした。

この時から何昼夜ぐらい走ったか、突然何もない森の中の一面に貨車は止まりました。薄闇に一面うつすら雪か氷が積もっていました。あたり一面何の音もしない。

シーンと静まりかえった所でした。「いや〜大変なところへ来たものだ、どうやら下車らしい」体中の力が無くなって、ヒョロヒョロしながらやっと下車しました。「さて、これからどうなる事やら」ソ連警備兵の誘導で、身体の衰弱が激しい者を除いて五百名ばかりが、線路からだんだん離れて北へ、北の方へと何処までも、何処までも突き抜けて行く道を（行き着く先が見えませんでした）進んでゆきました。二日だか、

三日だか行軍したあと、広い々谷間を抜け突然停止しました。

薄暗い雪空の下に、目前に現れたのがその時から八百日ばかりも私にまとりついた最初のラーゲル（捕虜収容所）でした。

高さ二メートルぐらいの頑丈な柵に囲まれ四隅に高い望楼が立ち、その望楼には四・六時中マンドリン（自動小銃）を抱えた監視兵が居りました。この柵の下には何段も有刺鉄線で囲んだ（電流が通っていたかも？）柵がありました。同じようなアーチのついた出入り口が幾つもありました。

この柵内の中央部に煙突のような物が突き出ていました。皮付き丸太で校倉造り風に造った馬小屋のような建物が点々とありました。

この小舎を中心に生活が始まったのです。………続く
伊丹市教育委員会

学校担当 米田博一様から
先日の研修で来館され説明を頂いた事への御礼の手紙が届きました。

講演の御礼

残暑の候、中田様におかれましては益々々健勝のこととお喜び申し上げます。

先日は、ご多忙中にもかかわらず、私どもの研修において説明いただき、誠に有難うございました。館内の展示をもとに、引揚の背景、シベリアなどでの抑留生活、引揚の歴史について大変わかりやすく説明していただきました。参加者の感想には終戦より、日本に帰ってくるために、長い時間、家族で身を寄せながら苦勞して帰ってこられた人達、またシベリアに連れて行かれ、死を覚悟しながら労働に耐えてこられた人達の事を子供たちに伝えていかなねばと再認識しました。それと日本も他の国の人に同様のことをしていたことも伝えて生きたい。」父がシベリアに抑留され、引揚者だぞたということもあり、初めて記念館に来たのですが、思わず涙が出てしまいました。戦争によつて数多くの方が長い間、苦しい生活を強いられ、また、国に帰れず命を失ったことに強い憤りを感じます。自分の母であり、妻であり、教師であり、一人の人間として、これからも命を大切にしてくくことを子供たちに伝えてゆかなければと思います。」等がありました。

中田様のお陰で、見学するだけでは、できない有意義な学びが出来ました事、心より感謝申し上げます。

会員の皆様の益々の活躍と健勝を
祈念いたしまして、御礼の言葉とさせて
いただきます。本当に有難うございました。

八月二十四日

伊丹市教育委員会

学校担当米田博一

白州茂氏の手記から】

昭和十三年七月召集令状が届き、出征
九月初旬大阪から支那大陸に向かう船
中での日本の戦う主旨説明があつた

船中で諸注意があつた。日本の敵は支
那軍、国民党、中国共産党、抗日学生
等の抗日挑戦の分子であつて断じて支
那4億の一般民衆ではない。ゆえにさな
きだに恐怖におののいている戦場の民衆
に対しては努めてこれを愛撫せよ。我に
手向かう者は断固として之を応徴する
が無辜の良民に対しては、あくまで之
を保護し、安じて生業にツカシムル事こ
そ日本軍の日本軍たる所以である。そ
の威あおぐべく、その徳懷くべきもの、
これ日本軍では無ければならぬ。
一般民衆は政治に預かるにあらず、ま
た抗日を欲するにあらずして、誤れる
国民政府、容共悔日の蒋介石政権であ
る。……今次事変を一大転機とし

て日本を知り、信じ、親しむるにいたら
しむることが必要である。」

東洋和平のために断固応徴の軍が進めら
れ、日本国民の大部分もまた之に賛同し
たのだた。



当時の出兵に際して日本の戦う大儀を説
明した。出征する人の個人の感情は別に
して、立派に死んでいきます」と言わなけ
ればならなかつた。そう言わなければ非国
民と言われ家族に至るまで身の置き所が
なかつたと後日談で話されている。当時の
世相が良くわかります。戦争の正義とは
なんなんでしょうね！国益という美題目
に酔いしれ、お互いが人間であるという事
さえ忘れてしまう。この文を読んでい
て……蒋介石の中国国民に対してのラジ
オ放送を思い出しました。一九四五年八
月十四日、戦争終結に付き 日本ポツタ

△宣言受諾日△

暴に報いるに暴を行つてはならじ、我らの
敵は日本の軍閥であつて、決して日本人で
はない」と：豊田

お知らせ

あなたは満蒙開拓団の悲劇を知っていま
すか？

なぜ、この悲劇は起きたのか？…羽田

澄子演出作品

嗚呼！満蒙開拓団】

十月十二日（日）＝＝＝京都府中丹文

化会館（綾部市）に於いて上映

時間：①十；三〇～

②十三；三〇～

入場料1,000円

2008年キネマ旬報文化映画ベストテ

ン一位

2008年日本映画ペンクラブ文化映画

ベスト1

ドキメンタリー映画試写会

「帰還証言…ラーゲリーから帰ったオー

ルドボーイたち」

いたいあれはなんだのか！終戦直後
の満州から、約六十余万人（最大七十
六万人）もの日本人達のシベリア死の行
進が始まった。これは元シベリア抑留体

験者三十一名のインタビュー記録映画で
す

九月二十三日（秋分の日）

日時：…ひとまち交流館 京都・河原

町（正面）前編十三；二十分～

後編十五時～

入場料無料（カン。歓迎）

原稿募集のお願い。

会報は会員の皆様の活動状況と情報の交
換の場です。自己紹介も含めて投稿をお
願ひします。

会報のあり方や新コーナーの提案等も含め
てご意見をお寄せ下さい。

なお、講演、紙芝居の依頼は必ず、事務局
まで連絡下さい。